

東京2020応援プログラム

鹿屋体育大学公開講座 ヨーコ・ゼッターランドさんとのバレーボールイベント

バレーボールは、東京1964大会から正式種目に採用されました。再び東京でオリンピックが開催されるにあたり、スポーツの価値をテーマに公開講座(講演会と小学生へのバレーボール教室)を実施しました。講師には、バルセロナ・オリンピック銅メダリストで本学大学院修了生でもあるヨーコ・ゼッターランド氏(日本女子体育大学准教授)を招聘しました(参加者:約140名<延べ人数>)。

講演会では、同氏から、バレーボールを始めたいと考えるようになった頃からオリンピック選手になるまでの過程でのエピソードや、自分の夢に挑戦することの大切さ、スポーツに取り組むことの意義などが語られました。また小学生たちとの質疑応答では、同氏の体験に基づいた説得力ある回答がなされ、保護者や指導者の方々、講演会のみ参加者の方々にとっても、有意義な機会となりました。続くバレーボール教室では、小学生64名が本格的な技術指導を受けました。教室終了後には、思い思いのグッズにサインをお願いし、大感激でした。

本公開講座の実施に際して、(公財)鹿屋体育大学体育・スポーツ振興教育財団からもご支援賜りました。また、参加者募集にあたり、鹿児島県内のバレーボール競技関係者の方々にご協力賜りました。特に記して謝意を表します。

【担当: 山田理恵、濱田幸二、坂中美郷、森克己、国重徹、浜田幸史、栗山靖弘、日下知明、鈴木拓朗、松田慶五、吉原大智、景山愛美】



学生レポート

文 : 山田ゼミ大学院生 (藤谷雄平、堀歩未)

写真 : 総務課広報係

目的

このイベントは、地域へのオリンピック教育の一環として、講演会とバレーボール教室を開催し、スポーツの価値とオリンピックの意義について考えることを目的としたものである。講師として、元アメリカ代表でオリンピックのヨーコ・ゼッターランドさんを招いて開催した。

実体験を踏まえた講演会

講演会では、ヨーコさんの現役時代の実体験で得た大切なことを中心にお話をされた。その中で、チームのために頑張ること、ネガティブワードを言わないこと、そして技術よりも人として信頼されることのお話が非常に印象に残っている。これから大きく成長していく選手にとって、この講演会はとても貴重な内容であった。

さまざまなバリエーションの基礎練習

バレーボール教室では、さまざまなバリエーションの基礎練習が行われた。前半は、他チームの参加者と交流を図るためにペアを組み、オーバーパスの練習や複数人のグループを作り、パス交換をしあっていた。また、4人グループでのパス交換では、ヨーコさんの笛の合図の回数でパスの向きを変える練習など判断力を養う練習も行っていた。



実施日 : 2019年12月15日 (日)

会場 : 205教室、球技体育館バレーボール練習室



スパイクを決めるまで終わらない

後半は、本学女子バレーボール部員が左右にトスし、参加者は、ギリギリのボールを捕る練習とスパイクの練習では全員がスパイクを決めるまで終わらないというユニークな練習が行われた。基礎を中心としたバリエーション豊かな練習であったが、子どもたちは終始集中していた。



東京2020オリンピック競技大会に向けて

元オリンピックであるヨーコさんの貴重な経験をうかがえ、技術指導も受けることができたとても良い機会であった。子どもたちには、このイベントで教わったことを理解し、実践していくことが重要である。また、東京2020オリンピック競技大会のバレーボール競技を観戦し、オリンピックに憧れを持ってもらいたい。

【東京2020参画プログラムHP 特設Webサイト(https://participation.tokyo2020.jp/jp/report/student_0034.html) に報告したものをもとに編集】